

NCR と DRO

1. 問題行動対処法の基本

問題行動への対処法の基本は消去と DRO である。

問題行動が何によって強化されているかを考えて、あたりをつけたら、まずその強化子をできるだけ与えないようにする(消去)。その一方で、問題行動が起こっていないときに、できるだけ強化する(DRO)。これが基本的な対応だ。

<問題行動の4大強化原因>

	事前	行動	事後
①要求の実現	ラーメンを食べさせてもらえない	→ 奇声を上げる	→ 食べさせてもらえる
②回避	手を握られるのが嫌	→ 噛みつく	→ 手が離れる
③注目	誰も注目していない	→ 頭をガンガンする	→ 「どうしたの？」
④感覚刺激	刺激がない	→ つばで遊ぶ	→ 刺激が得られる

<消去の問題点>

問題行動に強化を与えないだけだと、子どもはなんとか強化を得ようとして、問題行動を長引かせたり、消去バーストを起こしたりする。そこでほかに逃げ道を用意しておく必要がある。

2. DRO とその仲間たち

DRO とその仲間たち(分化強化)の特徴は、問題行動以外の行動を強化することによって、間接的に問題行動を減らすこと。

①DRO (他行動分化強化)

問題行動が起こっていないときに、定期または不定期に強化する。

例えば自傷行為が注目によって強化されていると考えられる場合、自傷を減らすために、自傷が起こっていないときに定期的に声をかける。

②DRA (代替行動分化強化)

問題行動に代わる何か特定の適切な行動を選んで強化する。できれば問題行動が生むのと同じ強化子を生む行動が望ましい。

例えばかんしゃくを起こす前に、「お菓子買って」と言わせて、言えたら1個だけ買ってあげる。

③DRI (対立行動分化強化)

問題行動と物理的に両立できない行動を強化することによって、間接的に問題行動を減らす。

例えば性器いじりを減らすために、バスケットボールや陶芸など、両手を使う趣味を教える。

④DRL（低頻度行動分化強化）

問題行動が以前より少なくなった時に強化する。

例えば授業中の私語が平均 1 時限に 5 回以上ある生徒に、いきなり 0 にするのは難しそうなので、3 回以内だったら、その時限が終わったときにポイントを与えて強化する。

3. NCR

NCR（非随伴強化、noncontingent reinforcement）とは、問題行動があるかどうかにかかわらず、定期的、あるいは不定期に強化を与えることで、問題行動を減らしていく。

DRO との違いは、DRO だと問題行動が起きているときには強化を控えるのに対して、NCR だと問題行動が起きているときでも強化をすること。

①Vollmer, et al, (1993) は自傷行為に対して、NCR と DRO の効果を比較した研究である。

被験者は自傷行為のある 3 人の成人女性。

ベースラインでは、自傷すると注意する。それ以外は関わらない。遊び道具は用意する。

DRO では、自傷していなかったら、10 秒ごとに注目（10 秒間の声かけ）を与える。自傷しているときは注目を与えず、タイマーをリセット。自傷の頻度が減るにつれて、DRO の強化も間引いていき、最終的に 5 分に 1 度に。

NCR では自傷しているかどうかにかかわらず、10 秒ごとに注目（10 秒間の声かけ）を与える。自傷が減ってきたら、徐々に声かけを間引いていき、最後は 5 分に 1 回まで減らす。

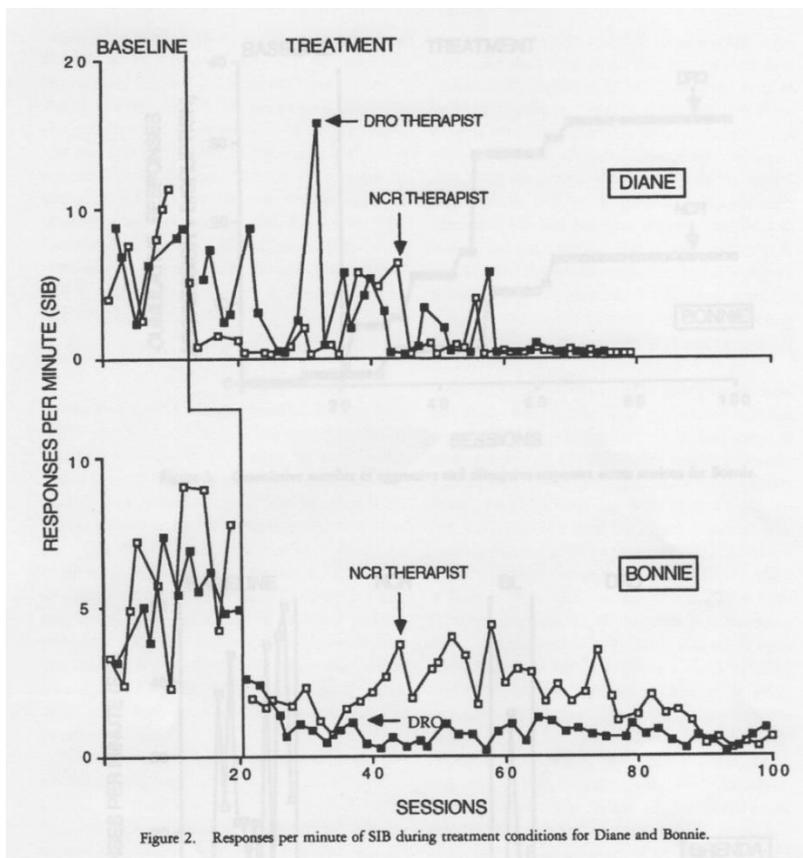


Figure 2. Responses per minute of SIB during treatment conditions for Diane and Bonnie.

結果は DRO も NCR も同じくらい効果があった。ただ、DRO の方が介入の途中での攻撃行動が多かった。

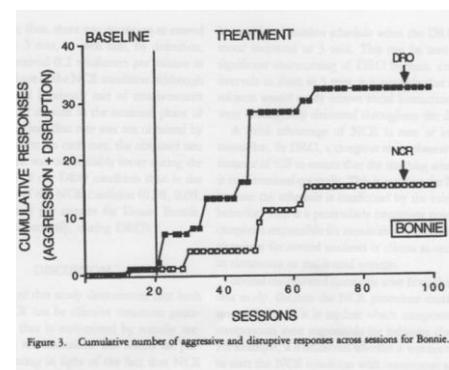


Figure 3. Cumulative number of aggressive and disruptive responses across sessions for Bonnie.

②Hagopian(1994)は5才の4つ子の女の子にNCRを実施した研究。4人とも自傷、攻撃、物への攻撃などがあった。これらの行動は大人の注目によって強化されていると推定された。

そこでVollmerと同様、問題行動が起こっていようとまいと、定期的に声をかけることにした。ただし濃密スケジュールは10秒ごとに10秒間の声かけからスタート(グラフの黒丸)、希薄スケジュールは5分に1度、10秒間の声かけをするだけ(グラフの白丸)。

結果は希薄スケジュールだと問題行動が減る子もいたが、減らない子もいた。濃密スケジュールだと4人とも確実に減少した。

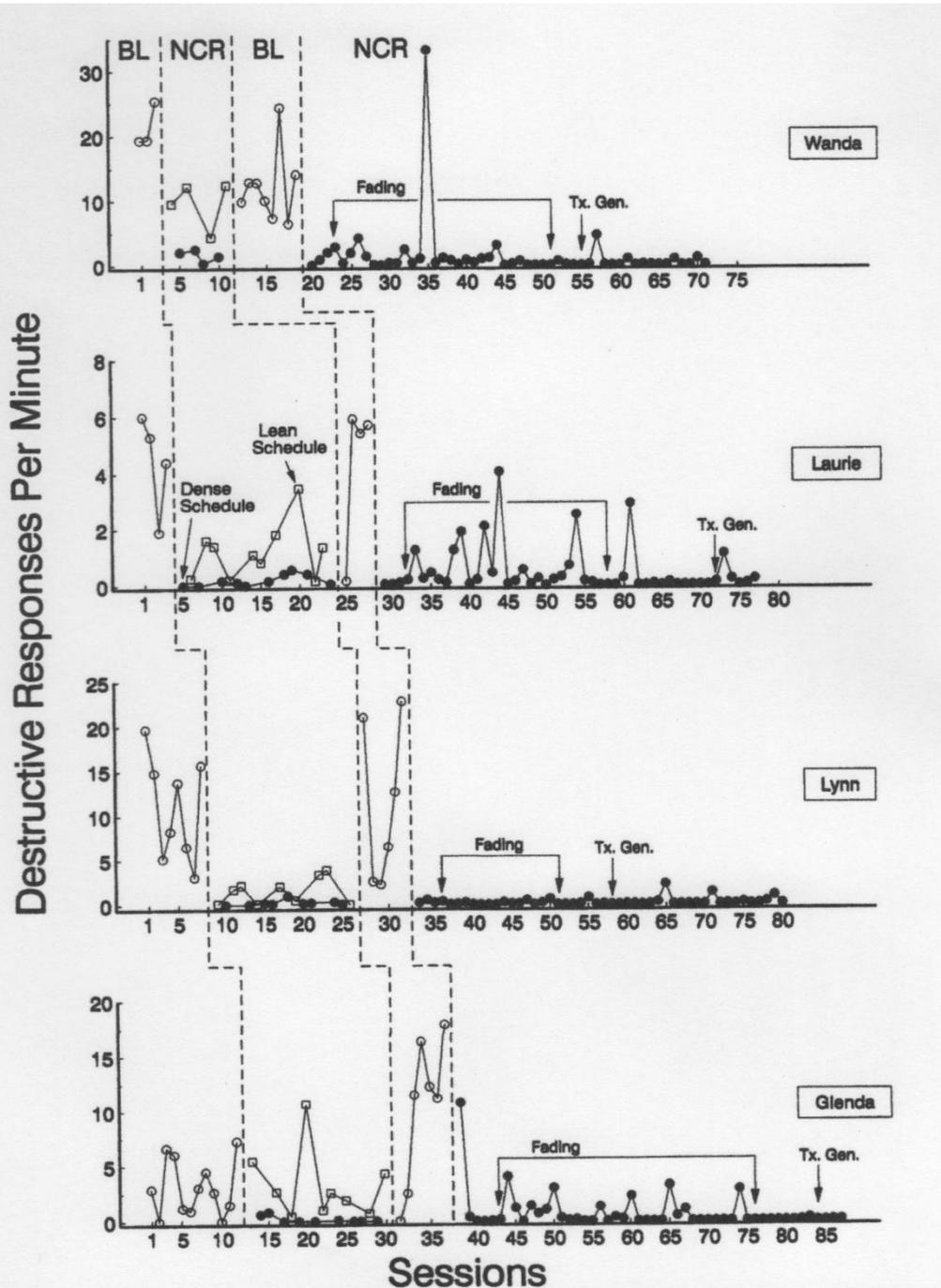


Figure 2. Rates of destructive responses for each client during sessions under the conditions of baseline (BL) and lean and dense schedules of noncontingent reinforcement (NCR). Arrows indicate fading and treatment generalization (Tx. Gen.).